

令和4年度第3回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨

日 時：令和5年3月1日（水）

13時30分～16時00分

場 所：青葉区役所9階会議室

出 席：島田委員長、荒井委員、加藤委員
齊藤委員、白石委員

※過半数の出席により委員会成立

1 開会

2 挨拶 仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会委員長 島田 福男

3 議事

(1) 議事録署名人選定 白石委員

(2) 令和5年度まちづくり活動助成申込事業 事業計画説明会

◇各団体プレゼンテーション

◇質疑応答意見等

① 一般財団法人 仙台YWCA

委員 ワークショップの回数はかわらないが、1年目決算と2年目予算を比べて、材料費や消耗品費の支出が少なくなっているのはなぜか。ものづくりをするときに、作るもののクオリティが下がってしまうのはあまりよくないことだと思う。

説明者 保育にお金をかけたいというのが中心にあり、お金をどこでやりくりするかということになった。助成金を頂く前年度にトライアルでワークショップを3回行い、ボランティアの方から材料として毛糸を頂いたり、自然の材料を使ったりなど工夫をして、できるだけお金を掛けないようなやり方でやってみた。助成金を頂いたことで本当に豊かなプログラムを実施させて頂いたが、エコバッグなどは材料費ゼロで作れるなど、そういった工夫がもしかしたらできるのではないかと思った。手芸教室のような習い事教室をやりたいのではなく、入り口は、何か手を動かしながら人との交わりを求めるところなので、個々の材料費は削れるのではないかということで削った。広報費についても、チラシ代の安いところを探したり、口コミやホームページ、SNS等で工夫したりすれば、経費を下げられると計算した。消耗品費については、今年度は消毒や除菌などにお金をかけたが、その分少し減らしていけるのではないかと考えた。託児用のマットなども買わせていただいたので、その辺でかかったお金を減らした。

委員 謝礼が今年度と比べて6万円ほど増えているが、これはなぜか。

説明者 保育者を1名増やした。保育料について、今年度は1人3,000円をお願いしてい

た。ワークショップの時間が1時間のため、1時間3,000円と考えてお願いしたが、準備や会議など全部参加していただくと、拘束した時間は1時間どころではなく、大変失礼なことをしてしまったし、プロの保育士に対してこの金額はあり得ないということだ。最低でも5,000円だろうということで金額を上げたのと、本年度2名だったのを3名で予算を立てたため額が増えた。

委員 とても素晴らしい事業だと思うが、広報の方法について、ホームページやFacebookだけにとどまらず、インスタなどSNSはいろいろなものがあるので、視覚的に見て、行ってみたいと思えるような広報の方法を考えてみてはどうか。

委員 本年度は広報の準備期間を2カ月ぐらいとっているが、来年度は1カ月しかとっておらず、それでも1回目のワークショップは開くのか。

説明者 本年度は、12月に終了し報告等とても大変だったので、1カ月早めて行いたいと思い計画した。広報に関しては、2カ月前から準備は進め、チラシ等で次第始めたいと思う。チラシ以外の広報は、今年度のノウハウもあるので4月から始めたいと思う。

② 白沢カルデアプロジェクト実行委員会

委員 計画3年目で今年が助成最後の年であり、なかなか頑張っていると思うが、今回の助成額のおお半が看板の製作である。製作予定のものは確かに立派だが、金額を下げるか、あるいは他の団体に寄付をいただくなど、もう少しいろいろな工夫をしていただきたいと思う。

説明者 地元の企業3、4件に寄付をお願いしているが、まだいい返事はもらっていない。努力していく。

委員 3年目も現地観察会のようなものをされるようだが、その場合の事故等があった時の保険について、1年目決算では観察会保険料が3,960円だが、2年目決算・3年目予算で0になっている。令和4年度・5年度の保険はどうなっているのか。

説明者 保険については、事業費外という扱いとし、令和4年度は参加者から500円ずつ頂き、その中から保険料として農協に支払っている。残金は参加した人の中で、車を協力してくれた方にガソリン代として支払い、残りはほとんど0となっている。

③ ドゥーラせんだい

委員 会則を見ると、民間資格のドゥーラ協会認定資格を持つ方が運営しているようだが、それは保育士や社会福祉士などを兼ねて、ドゥーラ協会の認定資格もお持ちの方ということか。それともドゥーラの資格は持っていないが、そういった社会福祉士や調理師、認定心理士などの資格を別途持っているということか。

説明者 全ての者が保育士や認定心理士という国家資格を持っているわけではない。会の中で何人かが資格を保有しているが、今のところ所属員全員が仙台市の開催する子育て支援員の研修を修了して、活動している。

委員 市民センターを中心に活動するようだが、どのあたりの市民センターを活用する予定か。

- 説明者 青葉区内の駐車場がある市民センターを利用しようと思っている。
- 委員 具体的にどの地域ということまではまだお考えではないのか。
- 説明者 候補に挙がっているのは、中山市民センターなどの2カ所である。
- 委員 年3回ぐらい交流会を開催する予定なので、そこを回って開催するということだ。講師料が1人35,000円で、講師はネイリストとフォトグラファーとのことだが、何時間ぐらいの拘束でこの講師料になるのか。
- 説明者 3時間拘束の3回分になる。
- 委員 事業の目的や内容が素晴らしいと思うし、少子化が進む中でこういう事業がこれから必要になってくると思う。収入の自己資金が86,743円とあるが、これは団体の自己資金か。
- 説明者 団体ではなく個人で、分け合っただけということになった。団体としての資金が少なく、個人で手出しをして開催する予定である。
- 委員 市民センターで1時間2,790円というのは少し高いような気がするが、これは市民センターに問い合わせた金額なのか。
- 説明者 この金額は1時間の金額の3掛けである。この事業は参加費を無料で想定していたが、駄目だった場合は参加費を取ってやるしかないとなり、その場合は営利目的になるので、1時間あたり3掛の費用で出した。
- 委員 市民センターは登録すれば、それほど高くないお金で利用できると思う。広報費だが、確かに広報はいろいろなところでやればやるだけの効果はあるかとは思いますが、これだけいろいろなところに当たって費用をかけるというのは、初めてでは少し無理があるかと思う。初めはなるべく効果のあるところに絞って、その年にやってみて駄目だったらもう少し広げてみるというのがいいと思う。また、接遇傾聴研修の講師料1名で100,000円とあるが、説明していただきたい。
- 説明者 7人分の傾聴研修の講師料になる。1人当たり8,000円の研修代がかかる予定だが、参加する人数が増える可能性があり、少し多めに計上させていただいた。
- 委員 市民センターでの開催というのを前提にしたときに、この広告費の額は少し大きいというか、市民センターで開催すると地域の方々が対象ということがあると思うが、そこ例えばインスタ広告がどう関わってくるのかということも分からない。また、接遇傾聴研修はドゥーラせんだいのメンバーの方7人が対象かと思うが、それはコミュニティづくりとどう関わってくるのか。
- 説明者 広告費についてだが、市民センターなどを活用すると、骨プロというものが利用できるようなので利用したいとは思っていたが、あまり外に出ていない、チラシを手に入る機会が少ない方もいらっしゃるのでは、ウェブ広告も流した方がいいのではないか、その中でSNSとして20代30代が目にとまりやすいのはインスタ広告なのではないかという話になった。接遇傾聴研修に関しては、交流会の中でお母さんや子どもたちの話をしっかり聴くことが運営する上で一番大切だと思い、どういった聴き方をするのか、どういう問いかけをしたら内に秘めた心の声を引き出せるのかという、心理的な研修を受けようかと思った。
- 委員 自分たちのスキルアップのために接遇傾聴を学ぶのであれば、市の助成金の中か

ら賄うのではなく、ママや妊娠中の方など受講した方に還元してあげるような方法を考えた方がいいかと思う。もし7名が参加するのであれば、その費用は痛いかもしれないが、自身の成長のために投資をするというふうにはできないのか。また、バスボールなどさまざまなワークショップで作るものは、みんなで作ってそれを参加者に差し上げるということか。だいたい何個ぐらいあげるのか。

説明者 大体2個ぐらいを作ってお持ち帰りいただく予定だ。

委員 バスボールは1個50円ぐらいでできると思うのだが、何名ぐらいの方が参加するのか。

説明者 予定としては、20名×3回で60名分という計算だ。

委員 そもそもこの接遇傾聴研修というのは誰向けにどういう目的で開かれるものなのか。

説明者 交流会を運営進行するスタッフや講師に受けてもらう予定だ。お母さんとお子さんたち、ご家庭に対してしっかりとお話を聞くマインド、心持ちを一定にしようと思った。

委員 人の話を聞き出すというのはすごく難しいことかとは思いますが、それは研修をしなければいけないほど必要があるものなのか。

説明者 もともと傾聴力というのは学んできていて、そこにプラスして改めて強化しようと思っていた部分である。

事務局 1点事務局から指摘させていただく。接遇傾聴研修だが、今のお話を聞く限り主催者側が研修を受ける、それに対する講師謝礼という事なので、募集要項にも記載されているとおり、助成の対象とならない経費に該当することになる。

④ くよみ郷土研究会

委員 大きなイベントとして、センダイ冠植物園と芋沢街道のまち歩きの2つあると思うが、参加者にアンケートをとる予定はあるか。

説明者 特に考えていないが、検討したい。

委員 センダイという名前の付いた植物がこれだけいっぱいあるというのと、実際まち歩きをしてみたの新しい発見や気付きなどがあるかもしれないので、そういうものを拾えるような仕掛けとして、次回以降非常に役に立つと思うので、ぜひアンケートを実施していただきたい。

⑤ 定禅寺リビングストリートプロジェクト

委員 地域回遊チケットについて教えていただきたい。

説明者 インスタグラムのフォトコンテストでの入賞者の方への特典ということで、こちらのメンバー内の店舗で使えるチケットとしてお出しをしたものだ。

委員 チラシの作成・ポスティングとあるが、ポスティングの範囲はどのあたりを予定しているのか。

説明者 今までの例を挙げると、立町周辺の地域で、大町、木町、立町、春日町。特にお子さん向けの家族連れのイベントを企画していたので、歩いて来られる、車で来て

いただける距離まではやらないというかたちで、自分たちでのポスティングを基本としてやった。だから広告費用のみで、ポスティング自体の費用はない。重複してお渡ししてしまうというのはあるかもしれないが、それだけ地域の人に認識していただけるという思いでやっている。

委員 3年目で、この助成が終了してもこのまま継続できる有望な事業だと思い期待している。地域回遊チケットに関し、入賞者が使用できるとのことだが、2万円というのをだいたい何人ぐらいを予定しているのか。

説明者 だいたい3名を目安にしており、1等が約10,000円分、5,000円分を2名の方にとにかくお渡しし、実際にちゃんとお店のほうで使用していただいている状況だ。

委員 高圧洗浄について、これから先のことを考えると、高圧洗浄機をレンタルするより購入したほうが安上がりになるのかと思う。

説明者 その方向では考えているが、店舗に置く場所がないので、今現在どれぐらいの効果があるかを試してからと考えている。それなりに一定の効果はあるが、いろいろな人に協力してもらわないとものすごく時間がかかるので、できるだけ下地が固まるまでは借りていたい。何回も回数をこなせばきれいになると思うので、ゆくゆくは購入の予定では考えている。ただ2万円を超えるものでないとなかなか効果が表れないのかもしれないというところで、そこを今検討中だ。

⑥ tuku-tuku 実行委員会

委員 団体の会員数が3人とあるが、実際には3人だけではできないと思うのだが、お手伝いしてくれる方はどのくらいいるのか。

説明者 実際に3人でやっている。

委員 出店する人を別に募り、出店料を払ってもらって参加しているというかたちか。

説明者 そうだ。

委員 イベントに参加する方がたくさん増えたと思ったが、何人ぐらいの方がお見えになるのか。

説明者 だいたい500人ぐらいだ。天気がいい日だともう少し来ており、800人ぐらい来たときもある。

委員 作並の温泉街の方たちともっと協力できるようになるといいと思う。

委員 tuku-tukuの出店費用が20,000円、会場使用料で20,000円ということはラサンタの出店費用は会場使用料と考えてよいか。そうすると、この事業をするにあたって、収入が市の助成金だけになってしまうと思う。2019年から今まで9回やってきて、のぼりなどを作成してきたわけだが、今までどうやってきたのか。

説明者 出店者から1,500円徴収し、そのうちラサンタの会場使用料以外でtuku-tukuへの参加費として500円頂戴しており、それでのぼりを5本ぐらい購入した。

委員 1,500円を出店者から徴収するということか。

説明者 そうだ。始めたばかりということで出店料を安めにしていたが、少しずつtuku-tukuも認知されてきたので、値段を上げようかと思っている。

委員 3年でこの助成は終わるので、助成終了後を考えて、なるべく助成金頼みとならないで自分たちで事業を継続できるような考え方が必要かと思う。

委員 元々実施していたものを10回目から助成事業でとのことだが、助成事業を仮に3カ年度やっていくとして、それによってtuku-tukuというものの、広報も含めて、どういう点が変わってくるのか。温泉旅館とのタイアップということで、どうしても通過してしまうところを回遊する、そこに留まってもらっていくつか回ってもらうような企画だと思うが、どういうふうにtuku-tukuというイベント、取り組みが変化をしていくのを狙っているのか。また、出店店舗数が直近3回で増加しているとあるが、仙台から山形の地域的な分布、どういう所の出店事業者なのか教えてほしい。

説明者 主にチラシやポスターなどを作製し、温泉旅館に置いて頂きたいと思っている。温泉旅館にいらっしゃる方はその温泉を目指して来るので、tuku-tukuのことはSNSでわざわざ調べないと思うため、ポスターやチラシを置く、あるいは可能であれば温泉旅館の方にこういったイベントを行っていることを言っただけであれば、こちらのほうに来ていただけたらと思っている。チラシに温泉旅館の割引券を付けることによって、tuku-tukuにいらっしゃるお客様に温泉旅館をご紹介できるかと思っている。出店店舗については、山形と仙台になる。出店者をお呼びする別のメンバーが、事業としてしっかり成り立っているか、しっかりファンがいるか、認知度があるか、あとは他となかなかかぶらないかなどを見て判断している。あとは実行委員には入っていない山形の方に、紹介してもらっている。

⑦ せんだい21 アンデパンダン展実行委員会

委員 映像撮影編集配信について、2年目予算は140,000円だが、これはどういう目的で行うのか。例えば仙台の中心部や郊外の美術館、あるいは公開空地にそういう作品であったり、あるいは身体表現もあるかもしれないが、そういったものがその場所で見られる、触れられるというところにひとつ意味があると思っているが、映像は少し違う要素だと思う。そうなってくると、この映像配信はそもそもアンデパンダン展というコンセプトとどう関わってくるのか。

説明者 映像はコロナの期間中に始めたのだが、施設が人を受け入れられない、無観客でやってくれということがあり、映像でライブ配信をした。今はそういう状況はなくなったが、遠方で会場になかなか行けない方が、郵送で受け付けられた自分の作品が展示されている様子や、いろいろなパフォーマーの方がパフォーマンスをする日をライブ配信したり、記録で撮ったものをYouTubeに上げたりなど、いろいろな方に展覧会を見てもらう機会として、おととしぐらいから映像の記録を撮り配信するということをはじめた。

委員 1年目に予算に入っていなかったものが2年目に入っているのは、1年目は別予算を組んだのか。

説明者 そうである。その時はどこまで配信するかということが申請段階で見えていなかったため、入れないで独自の予算でやった。

委員 予定している会場が令和4年度と5年度でほぼ一緒だが、会場費の予算が9万円アップしているのはなぜか。

説明者： 参加者の数にもよるが、毎年ギャラリーの方にはお願いして正規の値段よりも安くして頂いていたが、経済状況が大変な中でアーティストもそうだがギャラリーも活動されているので、正規の金額でちゃんとお支払いしたいと思った。

委員 令和5年度の計画でトークイベントまたはシンポジウム開催とあるが、いつ頃やる予定か。

説明者 アンデパンダン展開催期間中にやるが、なるべく前半に持ってきて、その後に見てくださった方が興味を持ちながら見られる機会をつくろうと思っている。理由の1つに8年前にアンデパンダン展をやったときに、メディアテークの学芸員の方が解説動画をYouTubeにアップして面白いということがあった。アンデパンダン展は無審査なので、キュレーターみたいな権威ある人の話を聞くとか、コメントが付くのはどうかということもありやめていたが、そういうトークをやった方が、あまり美術の見方が分からない人でも面白いということがあったので、やってみようかと思っている。

委員 今年度はぶらんど〜むなどの中心商店街と連携する計画などはあるか。出展数がほしい250点ぐらいだが、費用はかかるかもしれないが、フォーラスのようところで展示すると、今まで2週間くらいで12万ぐらいずつお支払いしてお借りしているギャラリーの費用が抑えられるのではないか。あるいは商店街のオープンスペースでそういったものも展示できれば、費用面で少し助かるのではないか。また、自己負担が347,000円とかなりの金額で2年目の予算が組まれているが、これはどういった方々が負担するのか。助成金に対して会場費の費用が赤字になるような計画であり、夢は広がって先々見ると展望も素晴らしいと思うのでお聞きしたい。

説明者 一番町商店街の方とは、今回初めて文化祭に関わりすごく協力していただき、来年度も何かしら一緒にやりたいというお話を伺っている。フォーラスの展示場所は7階となるが、人を7階まで上げるのはなかなか大変なので、今回商店街も協力してくれたり面白がってくれたので、1階のいろいろなテナントの前ののぼりを立てたり、フォーラスの前にデジタルサイネージを付けたりすることは協力すると言っていた。今後アンデパンダン展でという話はまだしてないが、何かあったらそのような取り組みに協力していただき、多くの方に足を運んでもらいたい。

委員 費用は掛かるのか。

説明者 できる限り低価格でとお話を頂いている。コロナもあり集中しては人は来ないが、2週間常に作品が見られるので、トータルでいうとすごく人が来てくれるということで、フォーラス側も協力的であり喜んでいる。自己負担の出どころは、自分のお金だ。個人というよりは個人事業主でギャラリーをやっているの、その事業費というかブランディングも含めてなので、単純に個人事業主というよりは、自分のギャラリーの広告費としてという認識でもある。

(3) その他

4 閉会